

## 令和2年度第2回川崎市資産改革検討懇談会（議事録）

- 1 開催日時 令和3年1月18日（月）午前10時00分～午前11時00分
- 2 開催場所 Web会議にて開催
- 3 議題（公開）
  - （1）施設白書について
  - （2）次年度附属機関（川崎市公共施設マネジメント推進委員会）について
- 4 傍聴者数 0人

### 5 会議内容

#### （1）施設白書について

#### 行政側出席者

資料1～資料4について説明。

#### 有識者委員

市民ニーズの把握についてだが、考え方は素晴らしいと感じた。地区カルテはすでに作られているのか。

#### 行政側出席者

すでに作成されており、作り方は異なるが、7区で地区ごとのものがある。

#### 有識者委員

情報は統一しないと意味がない。市全体で調整して、今後はこのようなフォーマットで作るようにするということが必要。次に、ニーズをどう把握するかということだが、地区カルテに記載されている活動団体、地域で活動する方々と情報共有しながら、様々な意見をいただくシステムづくりができればよいと思う。重要なのは、意見が偏ってはいけないということ。立場が違う団体は意見が違う。多様な立場の方々が参加できるようにすることが必要。そういう意味では、地域にどのような団体や立場の方々が属しているのかを調べて、そこを主な情報共有先として交流することが市民ニーズの把握には重要。今後、ワークショップやパブリックコメント等で多様な層からの意見を聴取する際にも活用できる。

次に、市民ニーズと施設情報の分析だが、分析する情報の属性が何なのかをしっかりと把握しておく必要がある。具体的には、施設の利用情報については、施設の利用者数だけでなく、部屋の稼働率を同時に把握する必要がある。建物の中でどこの部屋を何人使ったのか、部屋ごとの利用者数と稼働率の把握が必要。それができるようにするには、システムが必要。予約を入力することだけでデータ化できるような仕組みでないと難しい。部屋によって、時

間帯ごとの利用状況や利用する属性（高齢者、若者など）が異なる。資産保有の最適化を検討する際、建物全体の利用者数だけの分析では、検討が極めて限定的となる。

よって、今すぐにはできないかもしれないが、システム上で利用者または施設の担当職員が入力することでデータ化できるようにすると、時間毎、曜日毎、利用する属性など、どのような分析でもできる。これを活用することは、今後ものすごく効果を発揮する。

次に、対外的な資産保有の最適化の説明についてだが、現在の状況を把握して問題点を探すのが第1段階、次はそれを市民に説明する段階、その次はそれを市民と市と一緒にその問題点の解決に向けてどのようなことを目指すのか、お互いに意見を出し合って案を作成する段階。そのときに重要なのは、全てを市民に任せるのではなくて、市側で考えた案を3つ程度出して、市民と意見交換すること。市が考える案もなく、ゼロベースで市民に意見を求めると、これがどの方向にいくかわからず、市も整理できない方向にいつてしまう。市が複数の案を出し、それぞれのメリット、デメリットを市民に説明することが必要。それを市民と共有し、その中から案を選んでもよいし、その中からいくつかの案を組み合わせたものが出てよい。そうすることで、市側と市民側が納得できる案を探していく。このように3段階必要だと思う。

#### 行政側出席者

資産保有の最適化について、今お話しいただいた3段階は資料4の②に必要なことと認識している。一方で、①の資産保有の最適化そのものの説明について、具体的な施設がない中でどのように説明していくべきか苦心している。

#### 有識者委員

今、財政的に厳しいので資産保有総量を削減するという話ではない。市が施設を所有しなくてもサービスが提供できるということについて市民からの納得を得ることが必要。例示として、市が温水プールの運営を止めて、使わなくなった固定費を民間に支出し、市民が民間のプールを公共施設のように使えるようにすることで、市の建物でなくても、市民は良いサービスを受けられるという事が考えられる。市が建物を所有していないから、そのサービスができないということではない。限られた財源を建物ではなく公的サービスに充てるための資産保有の最適化であるということ、建物重視ではなくてサービス重視であることを積極的にアピールすることが一番のキーポイント。学校の中でも水泳教育を屋外プールで行っておらず、外部に委託している学校がある。その方が水泳教育の品質が高い生徒の安全面での配慮にも役立つ。そういったことをいくつか事例として出し、市が施設を持たなくても、良質なサービスが提供できるということを説明し、資産保有の最適化は建物を減らすのではなく、限られた財源をサービスメインに使うためだということを説明する。川崎市の事例を出して説明するともっとわかりやすくする。

資料1について、施設白書では老朽化状況をどのように把握するのか。

#### 行政側出席者

老朽化状況を表形式で、有形固定資産減価償却率を用いて表すことを検討していたが、本市では長寿命化関係の事業費を資産計上していないことから、表で老朽化状況を把握するのは難しいと考え、表形式の掲載は行っていない。施設白書においては、施設概要の「主たる建物」の経過年数で表すことになると考えている。

#### 有識者委員

実際の老朽化状況とは少し異なるのではないか。

#### 行政側出席者

施設によっては異なることもあると考えている。

#### 有識者委員

12条点検はやらざるをえない。12条点検で出た結果を施設白書の老朽化状況に反映することは考えていないのか。

#### 行政側出席者

12条点検について、現在、各施設所管課に確認しているところだが、全ての把握はできていない状況であり、今後の課題として考えていかなければいけない。今回の施設白書では反映できていないが、今後ブラッシュアップしていきたい。

#### 有識者委員

最初から100%にすることは難しい。現状できることから進めて、レベルアップしていくことが重要。施設白書を活用するためには、毎年更新できるようにしてほしい。

#### 行政側出席者

毎年更新を考えているが、システムの改修が簡単にはいかないところがあるため、改修しなくても他の手法で簡単にできないか検討し、可能な限り労力をかけず集計作業ができるようにしたい。

#### 有識者委員

土地と建物を分離しているが、これはすごく重要。土地を借りていて、建物を市が立てている場合もある。コスト状況については、用語について何を意味しているのか、施設白書に用語の定義を入れてほしい。

#### 行政側出席者

用語の定義については、第1章で記載していきたいと考えている。

#### 有識者委員

配置状況について、もう少しわかりやすい情報にするため、例えば延床面積で丸の大きさを変えるとわかりやすい。また、複合施設について、例えば市民館・図書館は半分に分けて半分は赤、半分は青、にすると2つの機能が入っていることがわかる。そうすると、地図を見ただけで施設の情報がわかるので良いと思う。

#### 行政側出席者

今いただいたご意見を参考に、もう少しわかりやすい形に変更できるよう検討したい。

#### 有識者委員

地区カルテのP4に見守り活動や子育てサークルがゼロとあるが、これはこの地区では活動がないということか。

#### 行政側出席者

その通りである。

#### 有識者委員

市民のニーズを把握するときに、子育てする方々のニーズを把握するにはどのようにすればよいのか、気になったところ。今はゼロだが、探して追加することを考えていただければよいと思う。

#### (2) 次年度附属機関（川崎市公共施設マネジメント推進委員会）について

#### 行政側出席者

資料5について説明。

※質疑、意見については特になし。

以上